

ィネートして、行政とかいろいろ民間団体、企業から支援をいただきながらそういう事業を行うということについてはなれてないので、かなり難しいと思います。ただし、いい機会ですんで、例えばそちらの米沢市のNPOさんと地元が協働でそういったことをやってもらい、なおかつ地元のNPOとかボランティア団体が学べるような、そして避難者の方にも喜んでいただけるような、そんな形を想定しながら、ぜひ前向きに検討したいと思います。ありがとうございます。

○蒲生光男議長 7番、我妻 昇議員。

○7番 我妻 昇議員 ありがとうございます。ぜひ予算も含めた対応をお願いしたいと思えます。

こういったことあるんですよね。今泉に来ていらっしゃる若いお母様が2人の子供を抱えていらっしゃって、すぐにでも子供を預けたいということで、2歳児、3歳児です、いろんなご都合があって、日中アルバイトとかということだと思んですが、2歳児を預けるときには、やはりお金の無料ということもあったんでしょうか、致芳児童センターに預けざるを得ないということで、2歳児は、でも3歳児が致芳児童センターいっぱいなんです、そうすると今泉ですんで豊田の児童センターだと。毎日豊田に行って、その後致芳に行って、そして今度、致芳に行って、豊田に行ってということをして毎日繰り返して、そして子供も今ではなじんだと思うんですが、当初兄弟離れ離れで非常に不安な日々を過ごされたということで、そういったこと、細かい事例ですけどもあると思うんです。本当に緊急というか、もうここに来るしかなくて来てる場合もありますんで、ぜひもうちょっと何かできないのかなと。そんな大変な思いさせてしまうのかな、端っこから端っこですよ、豊田から致芳ですから、土地勘もない人は、一直線ですけども、本当につらい思いを、なれる

までは大変だったと思いますけども。そういった面で緊急だとか、例えば何カ月という限定でもいいかもしれませんけれども、人的な措置も含めてそういった対応をすることによって、長井市は非常に対応が早いんだとか、親切に対応してくれるというような話をしてもらえと思うんですね、仲間に。だから、みんな来いよというふうに呼んでくれるかもしれません。そういったこともありますんで、市長、予算も、人的なことも含めて、ぜひ親身になって対応していただきたいと思います。

では、要望して終わりたいと思います。ありがとうございます。

梅津善之議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位10番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 最後の一般質問になりました。先ほど、我妻議員から体格は横綱と言われましたが、中身はやっと新弟子検査を受かったばかりということでございますので、お疲れのところとは思いますが、最後までよろしくお願いいたします。

じゃあ、通告に従いまして、私のほうから質問させていただきます。

まず初めに、消防団の地位向上並びに装備設備の充実についてということでございます。今年度、3月11日以来、防災について当長井市でもさまざまなこととお考えなされていると思います。その矢先でございます、6月の末、ゲリラ豪雨、いわゆる集中豪雨によりまして長井市内の冠水、さらには河川のはんらんがございました。私、農家でございましたけれども、消防署より4時半ごろ連絡をいただきまして、ちょ

っと来てけると、大変なことになってだという話がありました。すぐさま各部、班長に連絡をいたしまして、5時過ぎにはもう既に四、五十人の団員が消防署に集まりまして土のうの製作、さらには署員と協力しながら地域内のはんらん河川、さらには床上、床下浸水の住宅付近の河川に土のうを積み上げる作業を夜9時半ごろまで、大体そんな感じで終了したような気がします。住民の安心、安全を守るべき消防団がいち早く活動できて、地域の住民に安心感を与えられてたということは、私も誇りだと思えますし、行政にとっても非常にありがたいことだと思っております。

さらには、7月4日、行方不明者の捜索でございます。地区長より消防署のほうに連絡があり、さらには団員にも4日の夕方、夜半過ぎの捜索になりましたが、これは致芳地区内、1分団管内の分団長をはじめ団員の方々が当日夕方捜索、さらには5日の日の朝5時よりその日も7時半過ぎまで、次の6日の日は5分団、豊田地区、4分団、平野地区に範囲を広げまして各団員を招集しまして、朝5時より捜索をしました。河川、さらには本人が住んでいた前の地域であるとか、一生懸命な捜索の姿は、私、分団長をしておりまして非常に頭が下がる思いでありましたし、ある分団は、「分団長、おれ会社休んでもきょうはやるよ」という気持ちで参加していただいた団員もいます。非常にきずなといいますか、一市民を守るため、さらには大切な命を何とかして捜索しなねという思いが当消防団の中には非常に強くあるものだということを感じさせられました。分団長をしていても、非常に頭が下がる思いでございますし、ある意味、誇らしい気持ちでございました。

そうした消防団の備品や服装についてでございますが、一昨年活動服を購入していただきました。長井市だけ今まで活動服が西置賜管内はなかったわけですが、目新しい活動服に私ども

もうれしく思った次第でございます。ただ、現実その他はっぴでありますとか長靴、ヘルメット、さらには冬期間であれば寒さに耐える防寒具などはまだまだ不十分でございますし、市長も操法大会などをごらんいただいて非常にわかると思うんですが、一生懸命各班ごと練習すればするほどホースが破れたり、各備品が壊れたりするんです、一生懸命やればやるほどそういうものが必要になってくる。長井市の行財政改革の一貫の中で削減なり努力も私たち団員もやってまいりましたけども、ぜひもうちょっと十分にしてくださいとは言いませんけども、できる範囲内でご協力いただいて、十分な装備の準備をしていただければありがたいものだなと思っております。

さらには、昨日の安部副議長の質問にもありましたけれども、福祉共済制度でございます。18年度からすべて個人負担になっております。私も幹部になるまでは全然わからなくてきましたけども、各分団に交付されています交付金の中からみずからの分で福祉共済制度の掛金を負担しております。きのうの市長の答弁にもありましたけれども、十分私もそれは理解できることだと思っておりますが、団員各位の思いからすれば幾らでもご負担いただければありがたいものかなと思っております。

また最後に、消防設備のことになります。防火水槽、今は有蓋貯水槽に変わっておりますけれども、その設備であるとか消火栓の設備の今後の予定など、随時なされていくと思えますし、長井市内には水のないところの箇所がたくさんあります。そういったところの設備の充実なんかをどのような計画でしていくかもお聞きしたいものだなと思っております。

さらに、導入から約20年ぐらいがたつていまず軽積載車の更新のことでございます。20年をたつような軽積載車もそろそろ見受けられると思いますので、その辺の更新もどのように考え

+

ていらっしゃるかお聞きしたいと思ひますし、そのほか小型ポンプを今リヤカーにつけてポンプ庫に格納しているわけでございますけども、これをぜひ軽積載車にさせていただけるものかどうか、予算のこともありますので、今後の計画などありましたらお聞きしたいと思っております。

第2点目に、児童センターの運営についてでございます。今定例会でも児童センターの延長保育が議題に取り上げられておりますが、市内の保育園の定数がいっぱいの入園者に対して児童センターの入園者が少ないという現状が延長保育だけで解決するものとは、私は思っておりません。ただ、重要な一つではあると思っておりますし、させていただけるものなら、さまざまな問題あると思ひますが、ありがたいものだなと思っております。

ただ、延長保育をしたことにより送迎バスの利用が少なくなった場合とか、送迎バスの必要性が問われるというようなことがあれば非常に問題だなと思っておりますし、聞くところによれば、豊田、致芳、伊佐沢のバスが更新の時期になっているということもありますので、ぜひその辺も勘案して総合的に考えていただきたいと思ひますし、指定管理制度に29年度までに徐々に変わっていくということになっていくとお聞きしておりますし、その中で対応していくのではなくて、ぜひ早急に地域の方々と話し合いを持った上で結論を出してほしいものだなと思っております。

さらには、児童センターでの給食の問題であります。西根方式の外部委託も含めまして、十分な検討をいただいて、今ある児童センターでも、いかなる形であってもぜひ実施していただきたいと思ひますし、私たち預ける保護者は、児童センターであろうが、保育園であろうが、幼稚園であろうが、さまざまな違いはあっても同じ保育の環境を整えていくことが必要である

と考えております。ここに預けるとこうだとかということではなくて、さまざまな制約なり条件等の違いはあると思ひますが、預ける側から見ればそのようなことは全然考えることはなく、ぜひ同じ条件で預かっていただける施設がたくさんあるということが子育て支援などの面から見ても非常に重要なことではないかと思ひますし、幼児期の大切な時期を効率とか採算という分だけで割り切ることなく、ぜひ地域の特性とかさまざまな地域の方と検討した上で考えていただきたいものだなと思ひますので、その辺の市長の考え方を伺いたいと思ひます。

3番目になります。農業の担い手育成についてでございます。私も農業の担い手の一人ではございますが、長井市内で周年農業で生計を立てていくというのはかなり大変なことだと思っております。雪国という環境でもございますし、化石燃料を使つての周年の農業というものも今後はかなり厳しい状況になると考えております。

さまざまな県、国の支援事業がある中ではございますが、特に若い後継者は一生懸命朝から晩まで働いても、普通に会社員の若者と比べても大変に苦勞しているというのが現状としてあると思ひますし、一言で、例えば6次産業化というようなことを国などで言われましても、さて、すぐ加工場をつくつてとかいうわけにはいかないと思ひます。若い人がこの長井市でそういった6次産業にも取り組めるとか、さまざまな形で創意工夫をした農業に取り組めるような教育といひますか、さまざまな研修が必要ではないかと思ひますし、長井市は当然稲作地帯でございますし、そこからさまざまな農産物を駆使してつくられる特有のものを生かしながら、若い農家の人にも十分収益のある、採算性のとれる農業をしていけるような発想の転換でありますとか自己啓発を促すようなソフト面での人材育成などが必要だと私は考えております。

ぜひさまざまな形で取り組みやすくなるよう

な環境づくりを含めて、地域の後継者がやりやすくなる、さらにはさまざまな発想でいろんな農作物が出てくるような若い人の育成が必要だと考えますが、教育を含めて行政とともに取り組んでまいりたいと思いますので、その辺のお考えをお聞きしたいと思います。

以上、3点、通告に従っての壇上からの質問になっております。ありがとうございました。

(拍手)

○蒲生光男議長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時10分といたします。

午後 2時49分 休憩

午後 3時10分 再開

○蒲生光男議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

内谷重治市長の答弁を求めます。

内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員のご質問にお答えいたします。

梅津議員のほうからございましたように、日ごろ消防団員各位における昼夜を問わない活動に対し、衷心よりお礼を申し上げる次第でございます。また、6月の集中豪雨や7月上旬、搜索活動等々、本当に献身的にご協力いただいておりますことに厚く重ねてお礼を申し上げるところでございます。

議員からございました、まず質問の中で、1点目の消防団の地位向上、装備、設備の充実についてでございますけれども、最初に、やはり長井市の財政状況について改めて、ご承知のことかとは思いますが、置かれてる状況を申し上げたいと思います。

確かに22年度の決算で5億円近い実質的な赤字ということでございますけれども、これはこ

こ2年、3年の一たん減らされた地方交付税等々が経済対策も含めてさまざまな国からの支援策があったということも一つであります、実は長井市は過去15年ぐらいにわたって行財政改革を進めてまいりました。その中で、何とか市民の皆様のご協力を得て、さまざまなご要望に対して少し待っていただきたいということでご協力いただいていた経過がございます。よくなったという財政状況ではございますが、県内35市町村の中で、私の認識としては22年度決算でも35市町村のうち多分最下位かラス前ぐらいだと、それぐらいまだ厳しいんだということをまずご認識いただきたいと。

ただし、人件費等々あるいはさまざまな公共事業における公債費の負担については、大分行革を進めたおかげで経営体としては健全な方向に進んでるとは思います。一方で、やっぱり人を減らしたことによるさまざまな市民への要望等々に対して事務的に対応できないところも多々見られますので、そういったところは今後反省しながら、より充実した市民の皆様のご要望にお答えできるような市役所づくりに努めてまいりたいというふうに思っておりますので、決して消防団員の地位向上、地位を低く見てるとか、そういったことではなくて、押しなべてすべての市民の皆様、団体にご協力をいただいていたという経過がございます。

給与カットにつきましても、一般職員については昨年復活しましたが、議員を除く特別職については3月まで私ども給与カットしてまいりました、この3月まで。また、私と副市長については、特別職の報酬を条例で改正しておりますので、そういったこともやってきたんだということをまずご理解いただいた上で、ご提言にお答え申し上げたいというふうに思います。

まず、最初のはっぴとかヘルメット、活動服、長靴、ホースなどについてということ、また防火水槽の充実、福祉共済制度、軽積載車の更新

+

等についてお答え申し上げたいと思います。

消防団員の装備品の整備についてでございますが、平成21年度に地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業で、消防団員の活動服664着を整備させていただいたところでございます。これはもっとももっと本当は早くすべきだったのですが、何とか21年に国の制度を活用しまして整備させていただきました。活動服、はっぴ、ヘルメット等の交換分として今年度の予算に計上させていただいているところでございますので、まずこれらについては、今後、安部議員の昨日の質問にもお答えさせていただきましたが、活動服の中でまだ不十分と思われる部分が、まずは防寒とかかっぱ等々ではないのかなというふうに思っています、これらについても年次計画を立てて整備しなきゃいけないと思っています。

防火水槽の充実でございますが、先ほど議員からは消火栓のお話もあったようでございますけれども、長井市では23年度及び26年度にそれぞれ国庫補助を受けながら耐震性の防火水槽を3基ずつ整備する計画ですので、ご理解をいただきたいなというふうに思っています。また、消火栓については、これは上水道の布設管の問題もありまして、ある程度大きい管じゃないと消火栓つくれないということで、水道事業に合わせ管が大きくなったりとか、また今まで布設してなかったところに線が伸びたというときに、その状況を見て消火栓を設置させていただいておりますが、これらについても要望はたくさんあるんですが、優先順位を決めて順次やっていくというやり方でございます。防火水槽については1基当たりやはり300万円から500万円、場合によってはそれ以上というケースもありますので、ご理解を賜りたいと思います。

また、福祉共済金の掛金、これは昨日もご提言いただきましたが、安部議員の質問と繰り返すというか重複しますが、掛金につきましては、

これは3,000円の部分でございますけれども、団員個人の皆様の公務以外の私的な部分についてもきちっと補償の出る傷害保険という意味合いがあるものですから、まずは優先としては資機材とか、先ほど申し上げた消防団員のさまざまな被服類とか、そういったものを充実させた後に検討すべきだと思っています。なお、ほかの市町村ではやってない団の支援金として1人7,000円を長井市では交付してるわけです。団員全体で420万円以上の金額をそれぞれの分団ごとに交付させていただいておりますので、そんなことでご理解を賜りたいと思います。

軽積載車の更新でございますけれども、平成2年から整備が進められた事業でございます、平成24年度から年3台の更新整備を図る計画で現在進めております。現在のところ、小型ポンプ積載車は22台ございます。これらについては、先ほど申し上げましたように大分古いのですと20年を経過しておりますので、来年から3台ずつ古いものから、不都合のあるものから更新整備をしていきたいというふうに進めておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

さらに、議員からございました消防施設、消防ポンプの充足率は100%を超えておりますので、新たな配備の計画は現在のところ考えておりません。

梅津議員のご質問の中で、恐らく小型ポンプはあっても、軽自動車がないということでございますが、小型ポンプは市内で60台ぐらいあると思います、そうしますと1台をするということは、希望あったところにすべてトラックを用意しなきゃいけないということでありまして、これらについてやはり私も消防団のほうの実態をもう少しお聞きしながら、できれば消防署と、西置賜行政組合のほうと消防団のほうはいろんな意見交換したり連絡調整はしてるんでしょうけれども、もう少しお話などをお聞かせいただいて、今後の計画を考えていかなきゃ

いけないというふうに思います。

1 番目の項目については以上でございます。

2 番目の児童センターの運営についてでございます。3 点ほどいただいております。

まず、延長保育でございますけれども、これは平成21年の8月に策定いたしました長井市の保育計画において、児童センターの指定管理者制度の導入にあわせまして2歳児の保育及び延長保育を行う計画を立てておりましたが、計画を立てた直後リーマンショックが起りまして雇用環境が急激に悪化したため、家族全員で働く傾向が強くなってきてると感じております。その結果、ご家庭で子供を見て下さる方がいなくなり、夕方遅くまで保育園に預ける方が多くなったと思っております。児童センターを利用する児童が減少する反面で、認可保育園は待機児童が発生する状況になっております。実は今月も待機児童が発生しそうな状況だったんですが、今の認可保育園とか、あるいははなぞの、清水のほうとかにいろいろお願いして何とか今のところは待機児童発生してないんですが、10月以降は厳しいということから、今回の補正でも無認可の保育所のほうで受け入れしていただくように予算を計上させていただきましたが、そんなことで、もうゼロ歳児から預けないと生活できないというご家庭がやはりふえてきてるんだというふうに思っております。そんなことで延長保育は、やはり行政としてできる限りそのご要望にこたえるよう努力したいと思っております。

児童センターを利用できるように、勤めが終わってから迎えに行ける夕方6時以降まで保育をしてほしいとの要望を多くいただくようになったこと、ただいま言ったことですが、保護者アンケートにおいても要望が高いことから、指定管理者制度の導入を待たずにすべての児童センターで延長保育を実施できるよう、今定例会に設置条例の改正案を提出させていただいたと

ころです。延長保育の対応だけで保護者の要望にすべてこたえることはできないわけですが、身近な地域の施設を利用いただくための必須条件ととらえております。また、保育所待機児童の発生の抑制に結びつくと考えております。

次に、園児バスについてですが、これ議員からもありましたように、延長保育を実施することにより園児バスの利用者が大幅に減少することは、想定はしてないんですが、そういう心配はあることは確かだと思います。市の出生者数の動向を見ますと、平成22年度は前年度と比べまして大幅に伸びてます、230名ぐらい。21年度が190名ぐらいでしたので30名以上多いということなんですが、就学前の児童数は現在のところ減少傾向にあることから児童センターの入所児童も減少することが見込まれまして、園児バスの運行を維持するための保護者負担が増大してくると見ております。

このようなことから、現在のバス利用の形態を見直し、送迎が可能な保護者については児童の朝夕の送迎をお願いし、送迎できないお子さんについて園児バスで送迎を行うシステムに変更できれば、保護者負担の軽減とバスの集約化が図れるというふうに考えておりました。しかし、各児童センターのバスの運行時間が長いことや児童センター運営におけるバスの役割や位置づけが高く、過日開催した児童センター運営委員会におきましても、保護者代表の委員から送迎に1時間半を要しており、1台のバスを複数の児童センターで利用することは現実的には難しいというご意見がありました。また、バスを利用する子供たちの安全を確保するためにも、すべて大きいバスではなくとも小さいバスに変えることで負担を軽減するなどして、バスの更新について強く要望いただいたところです。

10月中旬から各児童センターの入園申し込みを受け付けますので、園児バスの利用意向などを伺いながら、バスの運行を委託している保護

+

者会と十分話し合いを行い、バスの更新を含め、今後の園児バスのあり方を決定したいと考えているところだ。

議員もご指摘だと思いますが、各児童センターの園児バスの運営の補助金として110万円から120万円、大体それぞれお分けしていますので、園児バスを利用されるお子さんというのはそれぞれの児童センターで違うんでしょうけども、やはり年間で見ますと園児に対して四、五万円から10万円ぐらい、1人当たり補助している格好になるんですね。市としては、園児バスを平野と西根だけは、まず年次計画で更新しています。伊佐沢と豊田と致芳は古いバスなものですから更新しなきゃいけないと思ってます。これ年次計画でしたいんですが、ただ新しくした途端やめたということになるとこれも無駄になりますので、再度いろいろ意見をお伺いしたんですが、やはり今後とも園児バスをそれぞれの児童センターでやりたいということがございますので、ぜひ来年以降できるだけ速やかに園児バスを新たにしていって、そのかわりやっぱり10年ぐらいは地元で頑張っていて、10年といわずに5年ぐらいは頑張っていてご利用いただくような形でお願いしたいなというふうに考えております。

児童センターへの給食の提供でございますけれども、先日、児童センターの保護者や就園前の保護者を対象に実施したアンケート結果からもうかがえますように、児童センターにおいて給食の提供を望む人が非常に多く、就園前の保護者の回答では児童センターに入園しない理由として給食がないからという答えが一番多く驚いたところがございます。しかしながら、県内の他自治体の児童センターの状況を見ますと多くが給食を提供しており、本市の児童センターでも速やかに提供できるように対応していく必要があると強く感じたところがございます。

県内の状況を見ますと、学校給食調理場で調理をして提供しているところ、外部事業者に調

理を委託して提供しているところ、保護者会が独自に対応しているところなどさまざまでございます。それぞれの取り組みについて学び、幼児の発育や発達に応じて栄養面などで配慮がなされ、衛生面でも安心して提供できる給食を目指していきたいと考えております。

高橋孝夫議員への答弁でも申し上げましたが、児童センターの給食については、どうすれば提供できるのか、共同調理場の活用も含めて速やかに検討していく必要があると考えております。今後も子育て世代の方が安心して働き、子を育てることができるよう環境整備に努めていきますとともに、地域の子供から利用していただける児童センター運営に努めてまいり所存でございます。

最後に、農業の担い手育成についてということで、こちらについて3点ほどいただいております。

長井市の気候に合った農業についてということでございますが、本市だけの問題ではありませんが、議員からもありましたように、農業就業人口の高齢化、平成22年度農業センサスは66.2歳が大きな課題となっております。また、農業就業人口、長井市の場合には1,498名でございますが、占める49歳以下は132名8.8%にすぎないという現状があります。特に若い農業者の集まりである、梅津議員も入られていたと思うんですが、長井農研の市内の会員は現在22名ということでございます。

このような中で、循環のまちづくりを目指し、安心、安全な農業生産の拡大を図ることを目的に、その出口戦略として市民直売所を開設しました。その上で、農産物ブランド化推進事業で認証農産物を市民直売所で販売した場合、販売代金の5%を支援しております。土地利用型農業の振興とあわせて園芸の産地化を図っていきたく考えております。市といたしましてはトマト、サクランボ、花壇苗を重点振興品目とし

ておりまして、県農業技術普及課でも園芸の振興による産地化に取り組んでおります。あわせて、農産物の販売だけでなく、冬期間の品ぞろえを考えた加工品開発の必要性も考えております。

6次産業化に向けた支援でございますが、これはふるさと雇用再生特別基金事業補助金を活用して、加工品開発事業を地場産業振興センターに委託して市民直売所で実施しております。また、レインボープラン推進協議会ではレインボープランの野菜を使ったスイーツの開発をしており、先日試食会を開催いたしました。トマト、ジャガイモ、カボチャを使ったスイーツの評価は上々でしたが、今後はどのように差別化していくかが課題となっております。

市民直売所は、3年間の試行期間が平成24年度で終了いたします。その後の形をどのようにするのか、早急に検討して方向性を出したいと思っております。考え方としては、直売所、加工施設、可能ならばレストランという形ができればよいのではないかと考えておりまして、まち・住まい整備課が検討してる川の駅構想もありますので、その中でどのような形ができるか、梅津議員も含めた、議会の皆様あるいは市民の皆様からも意見をちょうだいしたいと考えております。

創意工夫プロジェクトでございますが、創意工夫プロジェクトは平成21年から23年で17プロジェクトが長井市では採用され、実施されております。事業費ベースで1億3,500万円、県補助金が4,300万円でございます。県内でも最大クラス、市町村としては、だと思っております。内容としてはハード整備の事業が多いことは事実ですが、生産基盤となるハードの充実が生産力の向上につながることでありますので、今後は整備したハード部分がいかに活用されていくかが課題となっております。

法人組織や営農組織が中心となった土地利用

型農業の推進とともに、園芸の振興では生産組織を中心として生産技術の向上を図りつつ、量的、質的拡大を目指していくことが必要と考えております。しかしながら、農業就業人口に占める49歳以下の割合は8.8%にすぎないという現実の中で、後継者をいかにして確保していくのが大きな問題です。あわせて新規就農者には融資などの面で各種の優遇措置が準備されておりますので、その内容のPRが一層必要と考えております。

梅津議員からは、担い手の方の研修の場とか、そういったものが必要なのではないかとということでもございました。ぜひ、もし梅津議員が独自に具体的な案をお持ちでしたらご提言いただきたいというふうに思いますが、現在、長井市の担い手育成協議会というのがあるわけですが、そちらのほうでやはり研修会を開催してもなかなか人か集まらないということでもありますので、どういうふうな研修会をすると魅力あるものにできるのか。あと、農業技術の指導については置賜総合支庁の農業普及課のほうのご協力いただければさまざまな指導が得られますし、その辺のところは長井市はやはり少し遅れているというふうに私も思っておりますので、どのようにしていったらいいか、むしろ具体的にご提言をいただければ大変ありがたいというふうに思っているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

○蒲生光男議長 鈴木 智消防主幹。

○鈴木 智消防主幹 梅津議員のご質問にお答えを申し上げます。

私からは、今年度の活動服、はっぴ、ヘルメット、長靴等の個人装備品と動力消防ポンプ、ホース等についてご説明を申し上げたいと思います。

各装備品につきましては、新入団員用及び毀損分として、団員総員の5%から25%の数量につきまして今年度の予算に計上させていただ

て対応させていただいておるところでございます。また、小型動力ポンプ3台の更新整備とホースについても若干であります更新整備の計画を立てておりますので、よろしくご理解をお願いしたいと思います。以上であります。

○蒲生光男議長 那須宗一農林課長。

○那須宗一農林課長 梅津善之議員のご質問にお答えを申し上げます。市長の答弁と重複する部分もございますが、ご了承お願いをいたします。

1番目の長井市の気候に合った農業についてという部分でございますが、やはり冬期間の問題がございます。そういった中で、園芸振興というふうなところで施策を構築したわけでございますが、確かに化石燃料の高騰というふうなことで大変な時期を迎えているということは事実でございます。ただ、やはり先ほどありましたとおり、出口戦略としての市民直売所というふうなこともございますので、そういったところを活用できるような農業をどのようにしていけばいいのかという部分について、やはり農業技術普及課の先生方ともご相談申し上げながら今後進めていかなければならないなというふうに考えているところでございます。

農産物ブランド化推進事業というふうなところで、冬期間ではないわけですが、認証農産物をより振興していこうというふうな意味での助成措置なども講じておりますので、幅広い農産物の栽培、販売に取り組んでいただければというふうに考えております。

ちなみに、センサスの結果などを見ますと、販売をした経営体が985経営体ございます。そのうち関連事業、例えば直売とか農産物加工といったことをやっているのが148経営体で15%です。その15%を占める148経営体のうち農産物加工に取り組んでるのは16経営体、10.8%、あと消費者に直接販売をやっているというのが140経営体で94.5%、インターネットによる販売を行っているのは2%というふうなことで、

例えば今全国的に行われておりますインターネットを使った販売というふうなところまで含めた、やはり研修といいますか、そういった機会などもあればより幅広い後継者の育成、担い手育成につながっていくのかなというふうなことも考えることができます。

あと、新規就農に係りましては、議員も十分ご存じだと思いますけれども、就農研修資金、就農準備資金、就農施設等資金というふうな資金面での優遇措置がたくさんございますし、例えば経営体育成交付金事業というふうな中でも新規就農者補助事業ということで個人でのいろんな農機具等の整備にも2分の1の助成があるといったことで、非常に国、県を挙げていろんな取り組みをなされているところです。

ただ、平成18年から平成22年までの新規就農者を見ますと16人というふうな人数でございます。決して多いということではございません。制度は充実していても、それでもなかなか取り組む方が少ないというような現実はあるわけでございます。

先ほど市長からもあったように、農業就業人口がセンサスの結果を見ますと1,500人弱と、そのうち49歳以下が8.8%を占めるというふうな現状を考えますと、これから10年後の長井市の農業をどのようにして振興していくかということでは、今、喫緊の課題だとも言えるんだというふうに思っております。先ほど市長からもありましたとおり、梅津議員からもいろいろご提言をいただく中で、私どももできることに取り組んでまいりたいというふうな考えております。どうかよろしく願いいたします。

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 答弁、まずありがとうございます。

まず、1番目の消防団の装備の件に関してでございます。昨日の安部副議長のご答弁にもありましたけれども、まず福祉共済が予算的に無理

だという考えも十分わかりますが、せめて装備のほうを充実していただけるというお話でございます。

一つ例を挙げさせていただきますと、消防出初め式がございます。市長も当然ご参加いただきましてごあいさつをいただきますわけですが、私たち幹部は黒い制服を着てそれなりに、特に私は人より厚い服を着てますので寒くはないんでございますが、団員は活動服で非常に寒いです。気合いを入れて参加しているわけでございますけども、後日風邪を引いたりとかそういうことがあってはいけないと、当然分団長を務める私にとってもそう思っておりますし、厚着をしてこいよという話をしておりますが、ぜひかっぱと言われましたが、防寒着でもうちょっと寒さをしのげるようなものであればありがたいなと思っておりますので、その辺はいかがですか。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 かっぱということでなくて、防寒とかっぱというふうに言ったつもりですが。雨降ってるときも、特に今回集中豪雨なんかでも、夏だったらいいんですけど、秋、長雨なんかですと大変ですし、かっぱと、それから聞いてたのはやはり寒くて大変だとお伺いしたものですから防寒ということですが、かなり高いんだそうです。ですので、まさか3回に分けてなんていうわけにはいかないでしょうから、一括でやはり予算化すると1,000万円とかなるでしょうから、その辺も含めてできるだけ早く装備していくということをご理解をいただきたいというふうに思います。

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 じゃあ、続きまして、児童センターのことでございます。私は非常に古い人間でございますので、弁当ぐらいは妻につくって預けていかなねごでという話を妻とよくします。そうすると、妻は、お父さん何言っ

てんのよと、私も仕事してんなんぜという話で、たまにお父さんも詰めていったらいいんでねえかという話をされまして、じゃあわかったと言うと、一生懸命詰めてやるわけですが、娘にお父さんでないほうがいいという話をされたり、非常に家内もめの原因になっておりまして、できればという、当然児童センターに調理場があって、調理師さんとか栄養士さんがいらっしゃってという話であれば助かるわけでございますが、いかなる形であっても給食を提供できる、それも早い時期にさせていただきたいと思えますし、そういう環境が整って初めて子育てという形で安心して長井市で子育てができるという状況で移り住んでこられる方もいらっしゃいますと思えますし、私も娘一人まだ幼稚園にいるわけでございますが、まだまだ人口をふやすために頑張りたいなと思っておりますので、その辺もぜひお考えいただきましてお願いしたいと思います。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員おっしゃるように、やはり昔から言われたのは、小学校、中学校入るともう給食だから、せめて児童センターの場合なんかは給食じゃなくて弁当をとという話が前からありました。ただ、おっしゃるように大体女性の方の負担になるものですから、そういった意味では女性の方からの意見で給食ということなんだと思っております。

今回、いつもは児童センターの先生方、保育士さんのほうがやっぱり賛否両論ありまして、あとは延長保育なんか職員体制があるものですから普通は反対があるんですね。しかし、ことしは極端に定員に満たなかったんです、児童センター。そもそも少子化だったから定員に満たなかったかって、そうじゃなくてやっぱり保育園にみんな預けたがる、それは給食が一番、あとは朝晩ある程度延長保育で預かってもらえるというところだったと思えます。ですから、

+

それが児童センターの先生方、保育士さんからもぜひそういうふうにしないと児童センターも市民の要望にこたえられないということでありますので、給食については、最初、じゃあ25年あたりからなんていう声もあったんですが、そうじゃなくて24年の春からスタートできるように何とか検討しようとしております。

ただ、学校調理場でその供給ができないとなりますと、じゃあ民間でいいかというやはりいろんな問題もありますので、場合によっては24年度の前半に必要な工事をして、2学期あたりから夏休み以降から最低でも給食できるように何とか検討してまいりたいと思いますので、引き続きご指導いただきたいと思っております。

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 大変前向きなご返答いただきましてありがとうございます。

続きまして、3番目の農業の担い手の育成につきましてでございます。さまざまなハード的な、要するに機械を買うとかそういうことに関しては、県、国などの補助事業がたくさんメニューとして載ってきておりますのは担い手各位も多分理解してるものだと思いますが、農家はただ機械を買っただけでは生産性なり収益が上がるというわけではないんです。当然普及センターなりの指導を得まして、さまざまな作物に取り組むような指導なんなりを受けておるといのは事実でありますけども、地域に合った農産物というのは、やっぱり若い人は若い人なりの発想で作り出していくという機会なり、当然、先ほど市長がございましたように、農研でありますとかさまざまな団体の中で話し合っているいろんなことが生まれてくるような感じがいたしますし、そういったものを、出たものを市民直売所、当然インターネットなりを駆使して販売するアドバイスも含めてやっていかないとどうも収益につながらないと、つくると販売するのが一緒というか、私つくる人、あなた売る

人という考えではなくて、一連の中で収益を上げていくような状態を農家自身がつくっていかないとどうしても収益につながらないと感じております。そういったことを若い人の中で話し合う機会と、講演会もしても集まらないという話でございますが、こんなことをしたら売れるんでないとか、こんな感じのものであったらという話を、そういう機会を農家同士並びに行政も話し合った中で、まざった中で検討をされることが一番いいのではないかなと私も思いますし、どうしても担い手農業者も一生懸命働くことが精いっぱいな現実もあります。そういった中でゆとりを持った話し合いをできる場とか、そういったことを研修できる場が必要ではないかなと思いますので、その辺をぜひ検討いただきたいなと思っております。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 貴重なご提言ありがとうございます。

長井市では、もう4年前でしょうか、農産物のブランド化戦略会議というものを設けまして、これは小関秀一議員あたりからもいろいろご提言いただいたり、あるいは江口議員からもご指導いただいて、そういったレインボープランの認証制度と現在の慣行栽培との中間といった言い方は語弊あるんですが、少しレインボープランの認証制度より違った基準の安心で栄養価の高い農産物を生み出そうということで戦略会議しました、今はもうやっておりませんが。

それと、今度はさらに発展させて、例えば公募で何人か、あるいはいろんな農業団体から応募いただいて、農業の将来を考えるような、あるいはブランド化とかそういったことを、産地化ですね、考えるような農業会議というようなものもつくる価値はあるのかなと思います。ただ、行政側だけがやはり思い込みでやろうとしても、農家の方がどう考えるのか、農業団体が果たしてその必要性を感じているかということ

もありますので、ぜひその辺は梅津議員から、あるいは農業関係に携わってる議会の皆さんもたくさんいらっしゃるわけですから、いろいろご指導いただいて、農林課あたりといろいろ話をしてご指導いただければありがたいと思います。具体的にどうしたらいいかということについては検討したいと思いますので、どういう形がいいのか、できれば具体的にお知らせいただきたい。それは私ども行政は、やはりどうしても実践する立場ではありませんので、むしろ支援する側なんです。これは農家の経済活動で、それが市としても産地化なって、農業所得、農業総生産額が上がることによって当然市税等で納めていただく、そういったこともありがたいことでもありますけども、そういった視点での支援が私ども行政の主たる業務でありますので、やはり農業者はひとつ事業者、経営者でありますので、そういった視点からいろいろご指導いただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

午後 3時52分 散会

+

○蒲生光男議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 具体的な施策ということでございますけども、私も認定農家なり若いほうの農業者だと思っておりますので、ぜひいろんな話を持ち帰って検討させていただきたいと思ひます。

以上をもって質問を終わりたいと思ひます。

本日はありがとうございました。

○蒲生光男議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○蒲生光男議長 本日はこれをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。